

# 平成30年度 子育て支援センター（おひさまルームひじり）運営事業総括

## 【子育て支援センター運営事業】

### 《目的》

就学前児童とその保護者を対象に、子どもの人権尊重を基本に捉え、人と人とのつながりを通して様々なニーズに合わせた子育て支援を図る。

### 《内容》

子育て中の在宅の親子の居場所となり、子どもにとってはあそびの経験や他の子どもたちとの交流の場、保護者にとっては育児が孤立しないよう子育てについて話す場、他の保護者との交流・つながりの場、自分に合った子育てを学び合う場となるよう子育て支援を行う。

### 《主な事業内容》

#### I. 乳幼児やその保護者が自由に遊べる場の提供（オープンスペース）

- ・オープンスペース
- ・年齢限定オープンスペース（0,1歳児）

#### II. 乳幼児やその保護者の交流や学習の場の提供（プログラム）

- ・ベビーマッサージ（月1回）
- ・親子ふれあい遊び（年3回×2グループ）
- ・クリスマスを楽しもう！
- ・歯科衛生士のお話（年3回）
- ・1歳児集まれ！（年3回）
- ・幼稚園ってどんなところ?!（年1回）
- ・栄養士のお話（年2回）

#### III. 子育てサークル活動の支援

#### IV. 子育てに関する相談

#### V. 他機関との連携

#### VI. 子育てに関する情報の収集および提供

#### VII. 多世代交流イベントの実施

- ・稲ふれあいセンター祭り
- ・七夕飾り
- ・盆踊り
- ・あひるの子コンサート
- ・サンタクロースがやってくる！
- ・ひな祭りを楽しもう
- ・絵本の読み聞かせ・紙芝居・ハーモニカ演奏
- ・ロビーコンサート・ふれあいマーケット

#### VIII. その他

# 【I. オープンスペース】

## 1. 実施概要

目的	核家族化・少子化・住環境の変化などにより家族関係や近隣関係が希薄になり、親同士が日常的に交流できる場や子供同士が一緒に遊ぶことのできる場が減少している。これに伴い、育児不安や孤立した子育てが問題となる中、下記の目的の場を提供する。						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子が安心して遊ぶことのできる場</li> <li>・親子が他者と出会い・交流できる場</li> <li>・出会った親子が交流を深め、互いに成長していける場</li> <li>・子育てに対する知識をスタッフや他の利用者から得る場</li> <li>・子育て家庭の多様なニーズに応じた情報提供や相談に取り組む</li> </ul>						
	オープンスペース実施	月	火	水	木	金	土
	10:00~12:00	○	※	休業	子育てサークルデイ	○	○
12:00~13:00	おべんとうひろば	おべんとうひろば	休業	おべんとうひろば	おべんとうひろば	おべんとうひろば	
13:00~16:00	○	○	休日	※	○	○	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子で自由に遊ぶ</li> <li>・午前、午後終了前に手遊びや親子ふれあい遊びの紹介・絵本の読み聞かせ・ペープサート・パネルシアターなど</li> <li>・※印：プログラム、年齢限定、臨時オープンスペースを開催</li> </ul>						

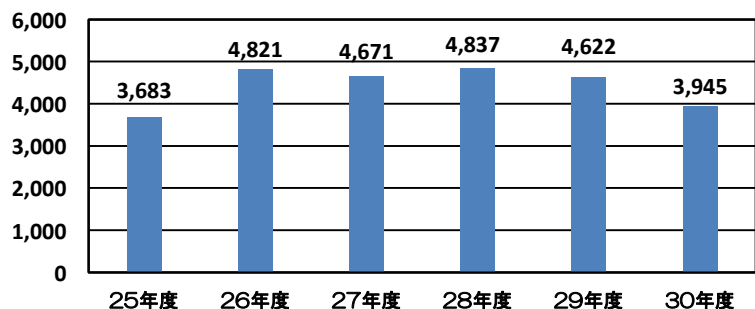
## 2. 実施結果

《オープンスペース年間利用数》

年度別利用組数

	利用組数
25年度	3,683組
26年度	4,821組
27年度	4,671組
28年度	4,837組
29年度	4,622組
30年度	3,945組

年度別利用組数



年度別利用人数

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
大人	3,807人	5,024人	4,853人	4,983人	4,830人	4,091人
子ども	4,271人	5,494人	5,636人	6,168人	5,821人	4,879人
合計	8,078人	10,518人	10,489人	11,151人	10,651人	8,970人

考察

・今年度は、地震、台風、大雨の影響で6日休室となり、全体で10日ほどオープンスペースが少なく、利用組数も、約700組の減少となった。臨時オープンスペースを前年度の26回から57回に増やしたが、利用増加にはつながらなかった。

月別では、6、9月が約100組、1、2月も約100組の減少。猛暑の影響や、インフルエンザの流行により、外出を控えられたと考えられる。また出張広場の充実と働く方が増えたことも関係していると思われる。7、8月に関しては、例年通り利用者が多く、水遊びも好評で、クールスポットとして利用された。

・0歳児限定は、前年度とほぼ変わらない利用組数だった。ニーズの高さが伺える。